

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

電話 / FAX : 03-5740-9505 e-mail : 最後のページ参照

日本教育工学会ホームページ <http://www.jset.gr.jp/>

ISSN 1340-9913

年始のご挨拶

会長 永野和男 (聖心女子大学)

昨年は政治も経済も怒涛のような年でしたが、皆様のおかげで、無事新年を迎えることができました。教育に限らずたくさんの方の問題をかかえての新しい年の始まりですが、皆さんの知恵と具体的な活動で乗り切っていきたいと考えています。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年は、学会創立25周年を迎えております。学会ではこの節目の年に、これまでの教育工学を振り返るとともに、今後の方向づけを探るいくつかの行事を計画しています。その一つが、次ページで紹介する「25周年記念シンポジウム」です。今年は会場を聖心女子大学広尾キャンパスに移し、研究方法を巡っての若手からの提言(学会誌では、実践論文やシステム開発論文の評価を検討しています)や、教育工学と問題意識の近い学会の代表者との意見交流ができるシンポジウムとなるよう企画しているところです。さらに今年は第3部(夜の部)を設け、これまで学会を育ててくださった方々に感謝の意味も兼ねた集いを行う予定で準備を進めています。3月になりましたら申し込みを受け付けますので、いまから日程を調整し、是非ご参加くださるようお願いいたします。

さて、もう一つの大きな企画は、大学教育に利用できるような教育工学選書をシリーズで刊行することです。教育工学は、さまざまな領域に対しさまざまな方法論をもって問題解決に対処してきました。しかし、それらの成果を「教育工学」として分かりやすくまとめた専門書はほとんど刊行されていません。そこで、学会がこれまで蓄積してきた基金の一部を使わせていただき、教育工学の考え方やその研究方法、研究成果を紹介した専門書のシリーズ(原則として1冊1~2著者)を安価に入手できるように順次刊行していきたいと思っております。現在編集委員会においてテーマや構成を検討いただいております。シリーズが揃うには数年かかると思いますが、30年の節目に向かって20巻程度を整えることができれば、教育工学の学術的位置づけや後継者養成に役立つのではないかと思います。

これからも学会としてさまざまな発信を続けていきたいと思っておりますので、ご理解・ご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

本号目次

年始のご挨拶.....	1	ショートレター増刊号論文募集のご案内(最終報)	10
第26回通常総会及び25周年記念シンポジウムの		FD研修会のご案内(最終報).....	11
お知らせ(第一報).....	2	理事会議事録.....	12
第26回全国大会のお知らせ(第一報).....	3	最近の論文投稿数と採択率.....	14
研究会の開催案内/発表募集/報告.....	5	会費納入のお願い、研究報告集予約購読等.....	15
産学協同セミナーのご案内(最終報).....	9	新入会員/学会日誌等.....	16

第26回通常総会及び 25周年記念シンポジウムの開催のお知らせ（第一報）

今年度の総会は、以下のように6月19日(土)に会長の勤務校の聖心女子大学にて行うことになりました。また、同日開催のシンポジウムについても、学会創立25周年記念シンポジウムとし、これまでの25年を振り返るとともに、次の時代における課題を検討したいと考えています。また、この機会に、これまで学会を立ち上げ育てていただいた歴代会長や副会長、賛助会員として支援していただいた企業の方々をお招きして、簡単な記念パーティーを企画したいと考えています。

◆第26回通常総会

日時 2010年6月19日(土) 12:00～12:50
場所 聖心女子大学 宮代ホール (渋谷区広尾4-3-1)

◆25周年記念シンポジウム

日時 2010年6月19日(土)
場所 聖心女子大学 宮代ホール (渋谷区広尾4-3-1)

第1部 10:00～11:50

研究方法論を探る（私の教育工学研究 ―この10年の潮流を踏まえて―）

教育工学研究の諸領域のうち、いくつかのものについて、若手研究者に、特色ある研究事例を報告してもらい、それらをこれまでの教育工学研究、とりわけ、ここ10年間の取り組みに位置づけることを通じて、教育工学研究の潮流や展望等に関する共通理解を図る。

司会：宮田 仁（滋賀大学）
報告者：システム開発から 金西計英（徳島大学）
情報教育の実践研究から 高橋 純（富山大学）
教育方法の改善から 村上正行（京都外国語大学）
認知領域の研究から 辻 義人（小樽商科大学）
総括：山内祐平（東京大学）

第2部 14:00～16:30

学会の役割と連携を探る（日本の教育、これからの10年）

教育工学はこれまでもさまざまな分野からアプローチを取り入れた学際的研究を展開してきた。21世紀に入り、知的基盤社会の創造に向けた多様なニーズに対する仕組み作りが求められ、教育のあり方にも大きな変化が求められる。学会設立25周年を機に、これからの10年を見据え、教育にどのようなニーズが生まれてくるのか、これらに対し教育工学はさまざまな学問領域とどのように連携協力して、教育の未来を開拓できるか、関連分野を代表する研究者を招き、ともに将来への展望を考える。

司会：山西潤一（富山大学・本学会副会長）
パネリスト：市川伸一（東京大学：日本心理学諸学会連合理事長・認知科学）
岡本敏雄（電子通信大学：教育システム情報学会会長）
永野和男（聖心女子大学：本学会会長）
ほか

第3部 17:00～19:30

25周年記念感謝の集い（記念パーティー）

場所 聖心女子大学 食堂（広尾キャンパス内）
歴代会長・副会長、賛助会員ほか

皆様、万障お繰り合わせのうえご参加くださるようお願いいたします。

日本教育工学会 第26回全国大会のお知らせ（第一報）

日本教育工学会第26回全国大会を、下記のように金城学院大学において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。また、研究発表にも奮ってご応募下さい。

1. 開催期日・会場

期日：2010年9月18日(土)～20日(月) (3日間)

会場：金城学院大学 〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目1723

※敷地内全面禁煙

名鉄瀬戸線「大森・金城学院前」駅下車、徒歩7分 無料駐車場100台 (8～20時)

名古屋駅から最短45分、中部国際空港から最短75分

<http://www.kinjo-u.ac.jp/contents/access.html>

2. 大会日程

第1日 9月18日(土)	第2日 9月19日(日)	第3日 9月20日(月)
9:00～17:00 受付	9:00～16:00 受付	9:00～15:00 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:30 一般研究発表3	9:30～12:30 一般研究発表4
12:00～13:30 昼食、各種委員会	12:30～14:00 昼食・理事会	12:30～14:00 昼食・
13:30～15:30 シンポジウム1	14:00～14:30 全体会	大会企画委員会
15:50～17:50 一般研究発表2	14:45～17:30 シンポジウム2	14:00～16:30 課題研究発表
18:00～19:30 ワークショップ	18:00～20:00 懇親会	

*プログラム編成によっては、時間帯が若干変わることもあります。また、企業展示が大会開催期間中開催されます(予定)。ぜひ見学にお立ち寄り下さい。なお、2日目の全体会では、研究奨励賞及び論文賞の表彰等があります。

3. 各セッションについて

(1) シンポジウム

テーマは検討中です。次号に掲載いたします。

(2) 課題研究

本大会では、昨年に引き続き課題研究テーマを公募の上、大会企画委員会で決定します。まず、3月23日までの間テーマを公募します。その後、課題研究テーマを決定して、大会Webサイト及びニューズレターで公表し発表者を募ります。課題研究のコーディネータは大会企画委員が担当します。それ以降はこれまでと同様で、発表希望者にプロポーザルを提出していただき、大会企画委員会が発表の可否を決定いたします。各課題について十分に討論することを目的としていますので、発表者は、発表だけで退席することなく、最後の総合討論に参加しなければなりません。この点、ご留意下さい。

■課題研究テーマの公募について

テーマ案の締切：3月23日(火) 提出先：taikai2010@jset.gr.jp

テーマ案の応募書式を第26回大会Webサイトからダウンロードして、課題研究テーマ、趣旨文、氏名・連絡先等を記述し、上記メールアドレスに添付ファイルにて申請して下さい。

(3) 一般研究

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。セッションは申し込みの状況に応じて統合・分割などの調整を行うことがあります。

なお、一般研究発表については、口頭発表とポスター発表のどちらかを発表者が申込時に選択できます。ポスター発表者は、発表セッションの定められた時間帯に、ポスター前で説明及び討論に従事しなければなりません。

(1) 語学教育・国際理解 (2) 情報教育(情報活用能力の育成等) (3) 教科指導におけるICT活用 (4) メディア教育・メディアリテラシー (5) 教師教育 (6) 特別支援教育 (7) 生涯学習・企業内教育 (8) 看護・福祉教育 (9) 教育評価・データ解析 (10) 授業研究 (11) 授業設計・実践 (12) 高等教育における教育方法 (13) 教育ソフトウェア開発・評価 (14) 学習コンテンツ開発・評価 (15) 遠隔教育・遠隔

学習 (16)知的学習支援システム (17)認知 (記憶, 問題解決, 脳・神経科学など) (18)教育メディア (19)e-Learning (システム) (20)e-Learning (運用・評価) (21)協調学習と協調作業 (22)ワークショップ (23)その他

(4) International Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは、教育工学研究の国際化に対応するものであるとともに、特に若い研究者に対しては、国際学会等での研究発表や討論を有意義なものとするための体験を提供する機会でもあります。発表は一般研究発表のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

◆発表時間について

発表時間は以下の予定です(発表件数に応じて変わる場合があります)。

[課題研究] 課題研究の趣旨説明10分 研究発表各15分 総合討論1時間程度

[一般研究] <口頭発表>発表10分 質疑応答4分

<ポスター発表>1セッション(在席責任時間は60分)

[International Session] 発表13分 質疑応答5分

(5) ワークショップ

本大会では昨年に引き続きワークショップを開催します。このワークショップは、参加者が設定したテーマについてインフォーマルに語りあう場です。ワークショップは参加者主導で進めていただきます。時間(1時間30分)の使い方は参加者にまかされます。予稿の用意は必要ありません。詳細は次号のニューズレターにて掲載します。

4. 大会までのスケジュール

前回の大会と同様に、論文集のCD-ROM版を文字検索可能とするため、論文はPDF形式での提出を原則とさせていただきます。

3月23日	火	課題研究テーマ案の応募締切
4月09日	金	課題研究テーマ採否決定通知
6月24日	木	課題研究発表申込書・プロポーザル(2~4ページ)提出締切
6月30日	水	ワークショップ テーマ受付締切
7月08日	木	課題研究採否決定通知
7月14日	水	ワークショップ テーマ決定
7月20日17時	火	発表者の参加費事前送金締切(クレジットカード払い, 郵便振込共に) 課題研究発表原稿(2又は4ページ)提出 一般研究発表/International Session申込書・原稿(2ページ)提出 ※17:00が最終締切時刻となります。原稿の差し替えは, 7月27日17時まではWeb上可能です(電子メールによる差し替えは認められません)。
7月27日17時	火	提出原稿の差し替え締切(17時厳守。この時刻以降の原稿の提出は一切受け付けません。)
8月24日	火	発表者以外参加費等事前送金期限(クレジットカード払い, 郵便振込共に) (それ以降は送金しない)

研究会の開催

研究会
2010

テーマ 教育実践を指向した学習支援システム/一般

- 日 時：2010年 3月 6日(土)
- 会 場：広島大学(総合科学部 講義棟2階)
(〒739-8521 東広島市鏡山一丁目7番1号)
- 担 当：舟生日出男 (funaoi@isl.hiroshima-u.ac.jp)

プログラム

発表時間：発表1件につき25分(発表20分程度，質疑5分程度)

A会場(K204教室)，B会場(K205教室)，C会場(K209教室)，D会場(K210教室)，E会場(K211教室)

9:55-10:00 諸連絡

10:00-12:05 午前の部

- A1) 双方向コミュニケーションシステム BeeDance を使ったアクティブ・ラーニングの試み
安武公一(広島大学大学院)，岩居弘樹(大阪大学)，奥岩真吾，井口博永(CSKシステムズ西日本)，
隅谷孝洋(広島大学)，浦真吾(CSKシステムズ西日本)
- A2) LiveScreenBoard: 創発的分業を促すパーソナルデスクトップ共有ツールの開発と実験的評価
望月俊男(専修大学)，大浦弘樹(ワシントン大学)，八重樫文(立命館大学)，西森年寿(東京大学)，
加藤浩(放送大学)
- A3) SNSの使用、学習コミュニティ参加と学習意識の関係性に関する検討
山田政寛(金沢大学)
- A4) ブログコメントによる相互評価の有効性について
中島進(唐津市立北波多小学校)，伊賀崎弘樹(広島市立翠町小学校)
- A5) Google Street View を利用した国際理解学習の実践
菊池裕史(専修大学)，中村泰(つくば市立栗原小学校)，望月俊男(専修大学)
-
- B1) 日本語文章表現授業に対する作文支援システム導入手法の開発
山口昌也(国立国語研究所)，北村雅則(名古屋学院大学)，棚橋尚子(奈良教育大学)
- B2) 作文支援システムを用いた作文指導とその可能性
北村雅則(名古屋学院大学)，棚橋尚子(奈良教育大学)，山口昌也(国立国語研究所)
- B3) 外国人日本語学習者のオノマトペ習得支援システム
橋本喜代太(大阪府立大学)，竹内和広(大阪電気通信大学)
- B4) 学生が協調的に作成した問題を活用した TOEIC 中級授業
南紀子，藤田美智代，清原秀美(創価女子短期大学)
- B5) ブレンデッドラーニングを取り入れたマス授業で行うピアノ弾き歌い指導の改善
中平勝子(長岡技術科学大学)，赤羽美希(深見友紀子ミュージックラボ)，深見友紀子(京都女子大学)
-
- C1) 視覚障害のある学生の ICT 利用の実態調査
宮城愛美，飯塚潤一(筑波技術大学)
- C2) これからの子どもに求められる能力にかかわる考察(2)
- 全米教育技術能力基準・生徒版に対するイメージ調査から -
波多野和彦(江戸川大学)，奥野雅和(京都文教高等学校)，山路進(日本私学教育研究所)，
三尾忠男(早稲田大学)，坂元昂(日本教育工学振興会)
- C3) 電子黒板の機能標準化に関する検討
- 日本国内への普及の系譜から -
梅香家絢子(内田洋行教育総合研究所)，高橋純(富山大学)，野中陽一(横浜国立大学)，
堀田龍也(玉川大学)，畠田浩史，森下誠太(内田洋行)
- C4) 情報モラルを取り巻く社会状況と学校・保護者の役割
玉田和恵(江戸川大学)，松田稔樹(東京工業大学)
- C5) 学校外の教育力を生かした学校づくりに必要な要素についての研究
- 同窓会についての質問紙調査を通しての考察 -
高石洋平(鳴門教育大学大学院)，藤村裕一(鳴門教育大学)
-
- D1) 教授活動ゲームの集団制御機能と相互作用過程記録機能の拡張
松田稔樹(東京工業大学大学院)
- D2) 数学的な見方・考え方を育成するゲーミング教材の設計原理
染谷諒(東京工業大学)，松田稔樹(東京工業大学大学院)
- D3) 数学的な見方・考え方に着目した教材と学力診断法の開発
難波俊樹，松田稔樹(東京工業大学大学院)

D4) 関数のグラフを描く学習を支援する Web システムの開発

郡司貴之 (湘南工科大学)

D5) 基礎数理科目における学生の課外学習支援の効果

西誠 (金沢工業大学)

E1) オンラインディスカッションの実践と意識調査、分析

－教科「情報」、裁判員協議をテーマにした協調学習－

中井良 (早稲田大学大学院), 工藤翔, 永岡慶三 (早稲田大学)

E2) コンピュータを用いたテストにおけるテスト中の学習効果

竹内俊彦 (東京福祉大学), 涌井智寛 (茨城大学)

E3) 動画を取り入れた文脈構成

永田奈央美, 岡本敏雄 (電気通信大学大学院)

E4) テキストコミュニケーションにおけるメッセージの背景画と感情手がかりの伝達

－イメージ BG を用いた背景画の検討－

加藤由樹 (東京福祉大学), 加藤尚吾 (東京女子大学), 千田国広 (東映アニメーション研究所)

E5) 協働作業における「協働」因子の抽出可能性

－脳血流と因子分析－

木下徹 (名古屋大学), 宮本節子 (兵庫県立大学), 今井裕之 (兵庫教育大学), 西尾由里 (茨城大学),

マーク・テラー (兵庫教育大学)

13:05-13:10 委員会挨拶・諸連絡

13:10-15:15 午後の部第一部

A6) 科学・理科教育のための PC-リモコン制御システム

小松原実 (岡山商科大学)

A7) 模型操作と連動するタンジブル太陽系教材を用いた学習効果の検討

瀬戸崎典夫 (首都大学東京), 岩崎勤 (ケイ・ジー・ティー), 森田裕介 (早稲田大学)

A8) ウェブと GPS を活用した野外観察データ共有システムの開発

関友作, 伊藤孝 (茨城大学)

A9) モバイル端末と RFID を利用した野外学習支援の実施と評価

西澤美希, 稲葉竹俊, 松永信介 (東京工科大学大学院)

A10) 複合現実感技術を利用した仮想電気実験システム (MR 実験室) の構築

小菌和剛 (熊本県立大学), 岩崎洋平, 西村壮平, 濱田雄一 (熊本高等専門学校)

B6) 類推的思考に着目した問題解決力育成のための技術教育教材の開発

佐藤治樹, 松田稔樹 (東京工業大学大学院)

B7) 技術者モラル教育用の“企業内相互作用体験ゲーム”の開発と実践

遠藤信一 (東京工業大学附属科学技術高等学校), 松田稔樹 (東京工業大学大学院)

B8) 発達障がいと併せ有する聴覚障がい児に向けた学習支援モデルの構築

山田萌香 (東京工科大学大学院), 松永信介, 稲葉竹俊 (東京工科大学)

B9) テレビ会議システムによる重度障害者向け学習実践

辻利則, 大山菜央, 田崎勇貴 (宮崎公立大学)

B10) Moodle を活用した情報倫理教育の実践と検討

神村伸一 (東北文化学園大学)

C6) サッカーの「エリート」教育に関する分析的考察

小谷俊夫 (鳴門教育大学大学院), 藤村裕一 (鳴門教育大学)

C7) 選手視点を利用したサッカー学習支援ソフトの開発

宇佐美雄也, 東本崇仁, 永岡慶三 (早稲田大学)

C8) 家屋の揺れの可視化により耐震工事の動機づけを高める教材の開発

田部井航太, 松田稔樹, 盛川仁 (東京工業大学大学院)

C9) 地震防災対策への態度変容に影響する VR の視覚情報の提示方法に関する要因の検討

三尾綾子, 松田稔樹 (東京工業大学大学院)

C10) 児童の危険予測と危険回避能力の育成

酒瀬川一矢 (鳴門教育大学大学院), 藤村裕一 (鳴門教育大学)

D6) 東京都における ICT を活用した授業力の向上

－東京都教職員研修センター「ICT 活用ガイドブック」の開発－

小池慎一郎, 前田平作, 江口千穂 (東京都教職員研修センター)

D7) 東京学芸大学近隣 3 市教員に対する ICT 活用調査

伊藤一郎, 新藤茂 (東京学芸大学)

D8) 教員の ICT 活用指導力の向上のための研修システムの開発

清水康敬 (東京工業大学), 堀田龍也 (玉川大学), 中川一史, 森本容介 (放送大学),

山本朋弘 (熊本県立教育センター)

-
- D9) 校内における ICT 活用の推進を目的とした教員研修の実施と評価
小清水貴子, 藤木卓, 寺嶋浩介, 宮内香織, 西田治, 織田芳人 (長崎大学)
- D10) 学校研究に対する教育工学の支援方法に関する研究
小柳和喜雄 (奈良教育大学大学院)
-

- E6) 大学生の情報源探索能力向上に関する実践
福本徹 (国立教育政策研究所)
- E7) 光科学, エネルギー及び環境をテーマとする教員研修の実践
星屋泰二 (日本原子力研究開発機構), 佐々木和也 (きつづ光科学館ふおとん),
西村昭彦 (日本原子力研究開発機構), 西川雅弘 (きつづ光科学館ふおとん)
- E8) メディア・リテラシー教育のための教員研修プログラムの開発
今井亜湖 (岐阜大学)
- E9) 教職実践のための相互評価支援システム
石川貴彦 (名寄市立大学), 赤間清 (北海道大学)
- E10) 工学系大学教職課程における情報化に対応した授業設計能力育成カリキュラムの再検討
－教職科目間連携にむけて－
石井奈津子 (芝浦工業大学), 松田稔樹 (東京工業大学大学院)

15:30-17:35 午後の部第二部

- A11) WebCT 教材の作成を通じた大学生のグループ学習
大澤文人, 長谷川秀彦 (筑波大学大学院)
- A12) 電子ポートフォリオによる語彙学習方略使用支援
田中洋也 (北海道情報大学), 前田真人 (電子開発学園)
- A13) プログラミング学習支援システム「CAPTAIN」における動機付け学習法の検討
山川裕子 (東京情報大学大学院),
大城正典, 松下孝太郎, マッキン・ケネス・ジェームス, 布広永示 (東京情報大学)
- A14) プログラミング学習支援システム CAPTAIN における学習状況把握機能の開発
大城正典 (東京情報大学), 山川裕子 (東京情報大学大学院),
マッキン・ケネス・ジェームス, 松下孝太郎, 布広永示 (東京情報大学)
- A15) プロジェクト管理ツールを用いたアジャイル型 PBL の実践
内藤広志, 宇津説人, 高橋規介, 竹澤雄, 山本祥子 (大阪工業大学)
-

- B11) ポータブルサーバベースド e-Learning 支援システムの開発
深水拓郎, 松野了二 (熊本県立大学)
- B12) 学習支援者の負荷軽減システムの試作へ向けて
松田岳士 (山形大学), 齋藤裕 (青山学院大学), 合田美子 (大手前大学), 山田政寛 (金沢大学),
加藤浩 (放送大学), 宮川裕之 (青山学院大学)
- B13) e ラーニング授業における自己調整学習スキルに関する質問紙の開発
－自己調整学習を促進するための支援を目指した学習者分類－
合田美子 (大手前大学), 山田政寛 (金沢大学), 松田岳士 (山形大学), 齋藤裕 (青山学院大学),
加藤浩 (放送大学), 宮川裕之 (青山学院大学)
- B14) 自己制御学習のための電子ポートフォリオシステムの開発
佐藤亮太 (東京工業大学), 松田稔樹 (東京工業大学大学院), 石井奈津子 (芝浦工業大学)
- B15) 電車空間に応じたモバイルラーニングコンテンツの開発に関する一考察
渡辺雄貴 (首都大学東京/東京工業大学大学院), 加藤浩 (放送大学), 西原明法 (東京工業大学)
-

- C11) 主成分分析を用いた実習科目の授業改善の試み
野崎真也, 東るみ子 (琉球大学), 永澤健 (広島工業大学), 波平宜敬 (琉球大学)
- C12) 活用力に着目した高校数学教育の改善案とその効果
山崎祐貴 (東京工業大学), 松田稔樹 (東京工業大学大学院)
- C13) 児童の話し合い参加を支える教師の働きかけ
－6年生の国語科の授業における事例－
魚崎祐子 (早稲田大学)
- C14) 「子ども主体の学び合い」を支える発話行為を促す教師の働きかけに関する検討
五十嵐亮 (九州大学大学院/日本学術振興会), 丸野俊一 (九州大学大学院)
- C15) 人と人が「つながる」ということに関する研究
－不登校経験者の克服過程に着目して－
十河智 (鳴門教育大学大学院), 藤村裕一 (鳴門教育大学)
-

- D11) 学童保育の今後の在り方について
横山大樹 (鳴門教育大学大学院), 藤村裕一 (鳴門教育大学)
- D12) 保育の質的充実を支援する遊誘財データベースの構築
-

藤原伸彦（鳴門教育大学大学院），鍋山由美，堀江真理子（鳴門教育大学附属幼稚園），佐々木晃（徳島県総合教育センター），新田陞子，勝浦千晶（鳴門教育大学附属幼稚園），田村隆宏，塩路晶子，木下光二，曾根直人（鳴門教育大学大学院）

- D13) パーソナルコミュニケーションから見えてきた教育情報コラボレーションの先行研究
柏木肇（電気通信大学大学院）
D14) 学校評価のための戦略的学校広報モデル
豊福晋平（国際大学）

●参加費用：参加費は無料です。

研究会報告集の年間予約購読代金（3,500円）を支払済みの本学会会員以外の方は，報告集代として1,000円を当日受付にてお支払いください。また，当日受付にて年間予約購読の申込みも可能です。

●交通案内：公共交通機関をご利用ください。詳しくは，広島大学Webサイトの「交通アクセス 東広島キャンパスマップ」をご参照ください。

→http://www.hiroshima-u.ac.jp/add_html/access/ja/saijyo4.html

●お知らせ：昼食はご持参ください。（大学周辺に飲食店はありません）

研究会の発表募集

テーマ： 情報モラル教育・ネットいじめ対策／一般

- 日時：2010年5月15日（土） ●会場：北海道教育大学旭川校（担当：村田育也）
●申込締切：2010年3月14日（日） ●原稿提出：2010年4月11日（日）

●募集内容：

情報モラル教育の体系化と標準化が，まだ充分に進んでいるとは言えません。その理由の1つとして，問題が非常に多様で，解決策の土台となる考え方も多様だからだと考えられます。その中でも，ネットいじめは，海外の多くの国で話題となっている解決困難な問題です。そこで，本研究会では，情報モラル教育とネットいじめに焦点を絞り，その研究に携わっておられる方々の発表を募ります。小学校から大学までを対象として，情報モラル教育の体系化を踏まえた議論や情報共有を行いたいと考えています。また，上記のテーマにはこだわらない教育工学一般における発表も幅広く募集しております。

●申込方法：

研究会Webページよりお申し込み下さい。

<http://www.jset.gr.jp/study-group/>

●原稿執筆：

締切後1週間以内に，申込時に登録されたアドレスに発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。

●原稿提出：

原稿の提出はPDF形式で，研究会Webページの「発表申込フォーム」より，発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご登録下さい。尚，期限までに提出いただけない場合は，キャンセルとさせていただきます。

研究会の開催報告

- 日時：2009年12月19日（土） ●会場：京都外国語大学
●発表件数：52件 ●参加者数：113名

「FDの組織化・大学の組織改革」というテーマで，平成21年度第4回の研究会を開催致しました。大学教育の改善を実施するための組織のあり方が問われている中，FD組織の分析，大学教員が行っている授業改善の現状分析，ICTを活用した授業改善の支援などさまざまなFDの取組や実践に関する研究報告及び活発な議論が行われました。当日は52件の研究発表が行われ，113名の皆様の参加をいただきました。これだけ多くの発表，参加者があったことから，FDや大学組織といったテーマに対する関心の高まりを感じることができました。会場担当の不手際で急遽会場の変更などがあり，大変ご迷惑をおかけ致しましたが，参加者の皆様のおかげでプログラムは予定どおり進行することができました。心より感謝致します。研究会にご参加いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

担当：村上正行（京都外国語大学）



今後の研究会の開催予定

発表申込み締切は概ね開催日の2ヶ月前となります。詳細は研究会 Web ページで

開催日	募集テーマ（予定を含む）	開催場所
2010年05月15日（土）	情報モラル教育・ネットいじめ対策／一般	北教大旭川校
2010年07月03日（土）	新時代の学習評価：理論・システム・実践／一般	電気通信大学

2009年度 産学協同セミナーのご案内（最終報）

■テーマ：「(続) 職業的専門性としての教育工学～教育工学を学ぶ，送り出す，一緒に働く～」

2009年度の産学協同セミナーでは，再度「人材育成」を取り上げます。大学で教育工学を学ぶことのゴールは，研究者になることだけではありません。学習支援に関する理論や手法，教育システム開発・デザインのための実用的スキルを生かして，教育関連企業や社会において活躍することも，教育工学を学ぶことの重要なゴールであります。

一方で，教育工学という研究分野を持つ大学にとっては，人材を育成し教育関連企業や社会に送り出すことは，社会貢献として，重要な任務の1つであります。そして，その人材が企業・社会で活躍していくことは，日本の将来に対する大きな貢献となると考えます。こうした意味から，「教育工学で働く人材」の育成は，まさに産学が協同で取り組むべき課題ではないでしょうか。

本セミナーでは，昨年度のもの以上に多くの分野で活躍をされている，大学から企業や社会に入った若手に多く登場をしてもらいます。加えて大学関係者，企業関係者も話題提供者にお招きし，それぞれの立場から，大学における人材育成の理念と現状，企業における人材育成の現状と大学に求める点，教育工学を学ぶことのキャリアメイクとの関連等について語っていただきます。

話題提供，全体討論を通して，人材育成という視点からみた教育工学の発展を，大学・企業の双方からどのように支えられるかについて考えていきたいと思っておりますので，教育工学を専門研究領域とする大学教員の方に加え，学生を送り出す就職担当の大学関係者，採用する側の企業での教育市場関係者，また，企業の人事の関係者等，幅広い立場の方の参加をお待ちしております。

■日時：2010年3月19日(金)13:30～17:00

■会場：内田洋行 東京ショールーム <http://www.uchida.co.jp/company/showroom/canvas.html>

■アクセス：東京メトロ 日比谷線「八丁堀駅」下車，「A4」出口より徒歩4分

東京メトロ 日比谷線・東西線「茅場町駅」下車，「1番」出口より徒歩5分

JR京葉線「八丁堀駅」下車，「B1」出口より徒歩5分

■プログラム

13:30～13:40： セミナーの趣旨説明と話題提供者・指定討論者の紹介

13:40～15:00： 話題提供①：教育工学を学び関係する企業等で働く方
予定) 企業や社会の現場で活躍する若手を5, 6名程度

教育工学関係の学部・学科・大学院を卒業し，企業等で活躍する若手社員や大学職員の方に語っていただきます。システム開発，コンテンツ開発，e-learning，教育現場業務運営・支援，企画調査，人材育成，教育市場関連の営業等，多彩な分野で活躍されている方々を予定しています。

15:00～15:15： 話題提供②：学生を関連企業に送り出す大学教員
山西潤一（富山大学）

15:15～15:30： 話題提供③：企業の人事責任者
斉藤憲次（株式会社内田洋行取締役人事部長）

15:30～15:35： フロアからの質問受け付け

15:35～15:50： 休憩

15:50～17:00： 全体討論・総括

17:00～： 希望制で自由な意見交換会を予定しています。大いに参加して下さい。

*今後，プログラムの詳細については，日本教育工学会のWebサイト（JSETホームページ）をご参照下さい。

ショートレター増刊号論文募集のご案内（最終報）

日本教育工学会論文誌 vol. 34, Suppl. の発行

論文受付締切：2010年4月1日（木） 編集委員会事務局必着

日本教育工学会論文誌vol. 34, Suppl. は、年1回発行されるショートレターの増刊号です。投稿規程及び原稿執筆の手引きを参照の上、奮ってご投稿下さい。ショートレターの採録条件は、Vol. 27より以下になりましたのでご注意ください。（詳細は、JET117号参照）

1. ショートレターは、刷り上がり4ページ厳守です。（4ページを超えるものは採録しない）
2. ショートレターでは、筆頭著者（ファースト・オーサー）は本学会会員であることが条件です。あるいは、筆頭著者が投稿時に入会手続き及び会費納入等を行うことが必要です。なお、各会員は本ショートレターを年1偏に限り投稿できます。
3. 2010年12月に発刊の予定です。

ショートレターの内容については、例えば、以下のような内容が考えられます。

- ・全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
- ・教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
- ・教育システム開発など
- ・教育工学研究としての速報的な内容
- ・卒業論文や修士論文等としてまとめた内容、など

なお、ショートレターで掲載された内容を、研究的に発展させ、まとめて論文採録の条件を満たすと思われる内容は、学会論文誌に投稿することができます。

ページ数が限られていることから、タイトル、著者、内容については十分厳選の上、ご執筆下さい。

特に、ショートレターの趣旨から、多人数の連名著者はさけて下さい。研究全体がプロジェクトチームによる共同研究であっても、実際にショートレターの限られた内容に直接携わり、執筆した研究者にしてくださいようお願い致します。

ショートレターの査読日程予定(2010年度)：

- 4月中 担当及び査読者の指名
- 5月 編集委員会で査読進捗状況の確認
- 7月 編集委員会で採録、返戻の第1回決定
- 9月 編集委員会で採録、返戻の第2回決定
- 10月 最終原稿の提出
- 11月 著者校正
- 12月 増刊号発行予定

論文投稿の仕方：

原稿は、「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトより電子投稿して下さい。投稿論文は電子投稿でのみ受け付けています。

問い合わせ先：

電子メール：short@jset.gr.jp

Tel/Fax：03-5740-9505 日本教育工学会事務局

大学教員のためのFD研修会（ワークショップ）のご案内（最終報）

趣旨：この研修会は、日本教育工学会がこれまでの知見を活用し、大学教育の授業改善や教員の授業力向上に寄与しようと、平成20年度から実施されているものです。大学教員をはじめ、大学教員を目指す学生や学校現場教員、指導主事等を対象としています。本研修会の修了生には学会より認定書を発行し、本研修を受講したことを証明します。

企画：日本教育工学会FD特別委員会（委員長：村川雅弘）

テーマ：「教育から学習の時代へ」

日時：2010年3月21日（日）10:00～17:30

会場：港区立高輪台小学校（港区高輪台2丁目8-24）品川駅から徒歩8分

会場責任者：高輪台小学校井上文俊校長（電話番号：03-5447-0616）

定員：40名（申し込み着順で、定員になり次第、締め切ります）

講師：織田揮準（皇学館大学教授、三重大学名誉教授）

講演題目「授業改善から学習改善へ～大福帳の活用を中心に～」

参加費：2,000円（学会員）、3,000円（学会員以外）

日程：

- 10:00-10:10 開講、講師・スタッフ紹介、日程説明
- 10:10-11:00 ワークショップⅠ「授業設計・実施上の課題整理」
（大学における授業設計・実施上の具体的な問題を出し合って、整理する）
- 11:00-12:00 ワークショップⅠの報告と協議
- 12:00-13:00 昼食
- 13:00-14:30 講演・質疑「授業改善から学習改善へ～大福帳の活用を中心に～」
- 14:40-15:50 ワークショップⅡ「自己のベストプラクティスの紹介と改善プランづくり」
（参加者が自己の授業記録や計画を紹介し、それに対する改善案を協議する）
- 16:00-17:00 ワークショップⅡの報告と協議、講師からの助言
- 17:00-17:20 自己の実践の改善プランの作成
（ワークショップⅡや報告、協議、助言を踏まえて各自がプランを改善する）
- 17:20-17:30 レポート提出についての確認、閉講

認定書：研修会終了後に最終レポートを提出した修了生には、日本教育工学会から認定書が授与されます。詳細は本研修会でお知らせします。

世話人：村川雅弘（鳴門教育大学）、黒上晴夫（関西大学）

申込み：http://ks-lab.net/haruo/JSET_FD/index.htmlにアクセスしてお申し込み下さい。2010年3月12日まで受け付けますが、定員に達した時点で受付を終了いたします。

問い合わせ先：

電子メール：kurokami@mbc.ocn.ne.jp

準備物：研究者等で高等教育機関において授業実践を行っている参加者は自己のこれまでの授業の中でのベストプラクティスに関する資料をA4で1枚以上にまとめて6部持参すること。また、学生等で未だ高等教育機関において授業実践を行っていない参加者は授業プランを立てて、その資料を6部持参すること。なお、昨今は大学教員採用時にシラバスや授業プラン等の提出が求められることが多い。

第13期第5回理事会議事録

日 時：平成21年11月28日(土)14:40～16:50

場 所：キャンパス・イノベーションセンター 8階 806号室

出 席：永野和男会長，永岡慶三副会長，赤倉貴子，大久保昇，小柳和喜雄，木原俊行，清水康敬，東原義訓，堀田龍也，村川雅弘，室田真男，矢野米雄，山内祐平，黒上晴夫

1. 第13期第4回理事会・評議員合同会議議事録を承認した。
 2. 会員の移動について承認した。（会員総数2,639名）
 3. 各種委員会報告について
 - (1) 編集委員会
清水編集長より，若干遅れ気味ではあるが順調に編集が進んでいる旨の報告があった。
論文誌には受理日以外の情報を記載するか審議中である旨の報告があった。
 - (2) 研究会委員会
小柳委員長より研究会の開催状況のほか下記提案があり承認された。
 - 1) 研究会の開催予定日について承認された。
 - 2) 1回の研究会における発表を1人1件に制限することについて承認された。
 - (3) 企画委員会
木原委員長より下記報告があった。
 - 1) 冬の合宿研究会（2010年2月27日，28日）の実施要項
 - 2) 産学協同セミナー（2010年3月19日）のテーマは「職業的専門性としての教育工学」
 - (4) 大会企画委員会
 - 1) 東原委員長より全国大会（東京大学）の発表件数は470件，決算完了の報告があった。
 - 2) 全国大会での遺失物の対応方法について学会としての方針の検討依頼があった。
 - 3) 次期大会企画委員を選任し，次回理事会直前に第1回委員会を行う旨報告があった。
 - (5) 顕彰委員会
研究奨励賞の推薦受付中である旨，永野会長より代理報告があった。
 - (6) 国際交流
永野会長より，来夏の中国との交流企画について状況報告があり意見交換がなされた。
 - (7) 特別企画(FD)
村川委員長よりFD研修会（2010年3月21日）について提案があり承認された。
 - (8) 広報委員会
赤倉委員長よりJSETニューズレター168・169号台割案について説明があり，承認された。
 - (9) 事務・統括
永野会長より学会資料のPDF化のために大会論文集の寄贈の協力依頼があった。
 4. 第25周年記念事業にむけて
 - (1) 永野会長より25周年記念シンポジウム（2010年6月19日）について以下の提案があった。
 - 1) 会場として聖心女子大宮代ホールを予約済である。
 - 2) 午前は教育工学の諸領域別にレビューを，午後は教育関連学会の代表的な方々をお招きして教育の諸問題に対するアプローチを，夕方から功労者への表彰やスピーチなどを行う。
 - 3) 企画委員会のシンポジウム担当者と会長・副会長・事務統括とで準備委員会を構成する。
 - (2) 永野会長より25周年記念事業「学会のロゴ募集」について確認され，協力の依頼があった。
 - (3) 永野会長より功労賞の選定方法を検討中である旨の報告があった。
 - (4) 永野会長より教育工学に関する記念出版の計画を検討中である旨の報告があった。
 5. 理事会日程の変更について
第13期第13回理事会（2010年11月20日予定）と同日に，全日本教育工学研究協議会（上越）が行われることから，同理事会を2010年11月27日に変更することとなった。
 6. 文部科学省への要望について
日本教育工学会として文部科学省に事業仕分け結果に伴う意見書を提出することが承認された。
 7. 監事の理事会への参加について
次回理事会より業務監査の観点から監事に理事会出席をお願いすることとなった。
- 以上

第13期第6回理事会議事録

日 時：平成22年01月23日(土)14:40～16:20

場 所：キャンパス・イノベーションセンター 8階 806号室

出 席：理事：永野和男会長，永岡慶三副会長，赤倉貴子，赤堀侃司，植野真臣，大久保昇，澤本和子，
清水康敬，東原義訓，堀田龍也，野嶋栄一郎，前迫孝憲，宮田 仁，向後千春，
室田真男，村川雅弘，矢野米雄，山内祐平，南部昌敏，吉崎静夫

監事：近藤 勲

1. 第13期第5回理事会議事録を承認した。
2. 会員の移動について承認した。（会員総数2,648名）
3. 各種委員会報告について
 - (1) 編集委員会
清水編集長より編集の進捗状況について報告があった。
編集委員としてスコット・ダグラス氏（早稲田大学）を追加することが承認された。
 - (2) 研究会委員会
植野副委員長より研究会の開催状況及び開催予定日について報告された。
 - (3) 企画委員会
 - 1) 宮田副委員長より冬の合宿研究会の実施要項について報告があった。
 - 2) 大久保委員より産学協同セミナーの案内状を賛助会員企業に送付する旨の報告があった。
 - (4) 大会企画委員会
 - 1) 東原大会企画委員長より新委員のメンバーの構成について提案があり了承された。
 - 2) 論文集の目次検索の作成についてシステム化したい旨の提案があった。
 - 3) 大会での研究発表の写真撮影・録画・録音について種々意見交換がされた。
 - 4) 第26回大会でもワークショップを初日に開催し，参加費は無料とすることが承認された。
 - (5) 顕彰委員会
研究奨励賞の推薦受付について永野会長より代理報告があった。
 - (6) 選挙管理委員会
選挙管理小委員会を構成し規定の見直しなどを含め9月から動き出したい旨の報告があった。
 - (7) 国際交流
赤堀委員長より委員会構成について提案され承認された。
 - (8) 特別企画(FD)
村川委員長よりFD研修会（2010年3月21日）について説明があった。
 - (9) 広報委員会
赤倉委員長よりJSETニューズレター170号，171号の台割案について提案され承認された。
 - (10) 事務・統括
永野会長より第25周年記念事業について説明があった。
25周年記念事業「学会のロゴ募集」について応募状況が報告された。

以上

最近の論文投稿数と採択率

編集長 清水康敬

本学会の論文誌、英文誌に投稿されました論文の数と採択率を以下に示します。
ただし、2009年度は、2009年4月から12月までに投稿された数となります。

論文誌(特集号以外)

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	査読中	採択率 %
2007年度	論文	44	23	19	2		52
	資料	14	10	4			71
	寄書	2		2			0
2008年度	論文	47	21	23	3		45
	資料	15	10	3	2		67
	寄書	1		1			0
2009年度	論文	45	9	28	2	6	—
	資料	7	2	2	1	2	—

論文誌(特集号)

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	査読中	採択率 %
2007年度	論文	23	9	12	2		39
	展望・総説	4	4				100
2008年度	論文	18	3	12	3		17
	資料	4	3	1			75
	寄書	1	1				100
	総説	3	3				100
2009年度	論文	17	7	9	1		41
	資料	9	6	3			67
	寄書	1			1		0
	総説	2	1		1		50
	巻頭言	1	1				100

論文誌(ショートレター)

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	査読中	採択率 %
2007年度	ショート	100	55	42	3		55
2008年度	ショート	104	50	47	7		48
2009年度	ショート	98	51	40	7		52

英文誌

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	査読中	採択率 %
2007年度	Paper	3	2		1		67
	Translation	13	12	1			92
	Technical Information	1		1			0
	Review	1	1				100
2008年度	Paper	2		1	1		0
	Translation	16	16				100
	Short Note	1			1		0
2009年度	Paper	2	1			1	—
	Technical Information	2	1			1	—
	Translation	8	7	1			88

2010年度会費納入のお願い

2月中旬に、2010年度（2010年4月1日～2011年3月31日）の会費請求書をお送りしました。クレジットカード支払い、または、その時に同封しました郵便振込用紙により年会費をご送金くださるようお願いいたします。

年会費の年額は右記のとおりです。

本学会では、年会費を納入した会員のみ論文誌を発送しています。2009年度会費未納の会員が会費を送金された場合には後日まとめて発送します。

◆会員種別と年会費・受けるサービス

(入会金 1,000 円)

会員種別	年会費	論文誌	増刊号	英文誌	JSET
正会員	9,000 円	1	1	1	1
准会員	5,500 円		1		1
学生会員	5,500 円	1	1	1	1
維持会員	50,000 円/口	3	3	3	3
名誉会員	無 料	1	1	1	1

(注) 論文誌：和文/年4回発行

増刊号：ショートレター特集/年1回発行

英文誌：英文/年1回発行

JSET：ニューズレター/年6回発行

◆学生会員について

- 学生会員は正規の入学者で、研究生は該当しません。
- 学生会員の所属機関は、必ず大学名となります。所属機関が大学以外の場合には、正会員または准会員となります。
- 学生会員は、資格条件（大学名、学部名/研究科名、指導教員名、卒業見込/修了見込の年月）を必ず連絡して下さい。
- 学生会員として資格条件をご連絡いただかないで、年会費5,500円を納入された方は、とりあえず准会員に変更させていただいております。

2010年度研究報告集の予約購読(年額3,500円)について

本学会では、研究会を5回開催し、研究報告集を発行しております。この研究報告集は事前に代金3,500円を送金された会員に配布しています。事前に3,500円をご送金下さい。

研究会当日、会場で受領できます。不参加の場合は研究会終了後に郵送いたします。年度の途中でご送金いただいた場合は、次に開催される研究会終了後に、それ以前の報告集を郵送します。

代金後納の場合と非会員の場合は、以下に販売を委託しています。代金：5,000円

- ・株式会社毎日学術フォーラム 販売業務課 小坂朋代
- ・〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル2階
- ・TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555 E-mail. maf-sales@mycom.co.jp

第25回全国大会講演論文集の購入について

昨年9月に東京大学で開催された第25回全国大会の論文集に残部があります。購入をご希望の方は、学会事務局 (office@jset.gr.jp) にメールで在庫を確認の上、以下の金額をご送金下さい。ご入金を確認後お送りいたします。

郵便振込用紙の通信欄に「第25回全国大会講演論文集」とご明記下さい。特にご要望がない場合、請求書・領収証等を発行しておりませんので、必要な方はその旨ご記入下さい。

- ・第25回全国大会講演論文集 1部 7,000円（論文集代6,000円+送料1,000円）
- ・口座番号：00180-2-539055 加入者名：日本教育工学会

代金後納の場合は、上記の研究会報告集と同様に、(株)毎日学術フォーラムに販売を委託しています。代金は6,000円+送料となります。

■正会員 23名

上原 明子(沖縄キリスト教短期大学)
小川 史朗
片岡 勲人(東海大学)
國近 秀信(九州工業大学)
熊野 雅仁(龍谷大学)
島 健(上智大学)
末松 久幸(長岡技術科学大学)
杉本 成昭(四街道市立四街道小学校)
高橋 昌由(大阪府立山田高等学校)
土井 努(茨城キリスト教大学)
野中 孝昌(岩手医科大学)
朴 恵一(大阪経済法科大学)
藤森 裕治(信州大学)
布山 毅(文星芸術大学)

ホーン オイヴィン
(インターレクト株式会社)
松下 慶太(実践女子大学)
米原 あき(東京工業大学大学院)
伊東 幸宏(静岡大学)
永井 智(立正大学)
寺本 貴啓
船田 眞里子(白鷗大学)
松波 紀幸(西東京市立栄小学校)
富家 直明(北海道医療大学)

辻村 真一(筑波大学大学院)
嘉数 健悟(広島大学大学院)
酒瀬川 一矢(鳴門教育大学大学院)
小谷 俊夫(鳴門教育大学大学院)
高石 洋平(鳴門教育大学大学院)
十河 智(鳴門教育大学大学院)
平田 良作(熊本大学大学院)
横山 大樹(鳴門教育大学大学院)
今川 弘子(同志社女子大学大学院)

■学生会員 12名

米谷 雄介(東京理科大学工学部)
大作(加藤) 光子(筑波大学大学院)
徳舛 克幸(筑波大学大学院)

■准会員 3名

山本 繁樹(東洋大学)
三日市 大基
真田 武知(八雲町立黒岩小学校)

学会日誌

2010年

- 2月27日(土)～28日(日) 冬の合宿研究会「教育現場とつくる実践研究のデザイン」
(かんぼの宿 松島)
- 3月06日(土) 研究会「教育実践を指向した学習支援システム」 (広島大学)
3月19日(金) 産学協同セミナー「(続)職業的専門性としての教育工学～教育工学を学
ぶ, 送り出す, 一緒に働く～」 (内田洋行 東京ショールーム)
- 3月21日(日) FD研修会「教育から学習の時代へ」 (港区立高輪台小学校)
- 5月15日(土) 研究会「情報モラル教育・ネットいじめ対策」 (北教大旭川校)
- 6月19日(土) 第26回通常総会・25周年記念シンポジウム, 25周年記念感謝の集い
(聖心女子大学)
- 7月03日(土) 研究会「新時代の学習評価: 理論・システム・実践」 (電気通信大学)
- 9月18日(土)～20日(月) 第26回全国大会 (金城学院大学)

お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ…………… 編集委員会 (editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ…………… 研究会事務局 (study-group-core@jset.gr.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ…………… 大会企画委員会 (taikai2010@jset.gr.jp)
- ◆ 合宿研究会やシンポジウムの開催についてのお問い合わせ…………… 企画委員会 (kikaku@jset.gr.jp)
- ◆ ニュースレター編集に関するお問い合わせ…………… 広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他のお問い合わせ…………… 学会事務局 (office@jset.gr.jp)

広報委員会

編集長: 清水康敬, 担当副会長: 永岡慶三,
広報委員長: 赤倉貴子, 幹事: 伊藤剛和, 委員: 永田智子, 皆川 武, 宮田 仁
E-mail: kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニュースレター No. 170

2010年02月24日 発行人 永野和男
発行所 日本教育工学会事務局
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル
TEL/FAX: 03-5740-9505 E-mail: office@jset.gr.jp
http://www.jset.gr.jp/ 郵便振替 00180-2-539055